

感情のコミュニケーションを通じて学生を気にかけるリアルタイム授業

科目名：集積回路工学通論 A・B

担当教員：井上弘士 教授（システム情報科学研究院）

形式：リアルタイム型

学年：3 年生

人数：60 人

ツール：Teams

評価方法：レポート、出席

Q1. この授業で取り入れられた工夫について、改めて具体的に教えてください

この授業では、Teams のチャット機能を使って、授業の冒頭で「今の気分を絵文字・一文で表して、チャットで送ってください」と伝えて、教員と学生でやりとりをしました。また、授業後には、「サムズ・アップ」を示してもらうことで授業の理解度を把握しようと努めました。加えて、これは通常の授業の時から行なっていたことですが、難しい説明の時にはアナロジーをふんだんに使って、語りかける口調で説明することを心がけました。

Q2. 取り入れた結果、学生の反応はどうか

実は授業内ではそれほど活発に学生とやりとりしたわけではないのですが、学生からは「積極的にコミュニケーションを取ってくれた」といった評価を受けています。コミュニケーションが単に言葉だけでやり取りされるものではなく、説明時の口調を含め、学生のことを気にかける教員の姿勢全体から読み取られるもののかな、と感じました。

Q3. 取り入れるために必要な準備

絵文字やサムズ・アップは Teams に初期搭載の機能なので、授業前に何か特別に準備する必要はありません。その意味では、どのような授業でも使える方法かと思います。重要なのは、「学生のことを気かけよう」という教員自身の熱意のようなものかと思います。

～インタビューー雑感～

「コミュニケーションの本質」ということを非常に強調していただきました。私たちはコミュニケーションというと、言葉でのコミュニケーションを考えがちですが、普段対面授業では学生の表情などを見ながら、彼らのことを把握しようと努めています。オンライン授業では、たとえ学生が顔をカメラに映していたとしても、対面の時と比べて得られる情報はやはり限定されてしまいます。その機会を取り戻そうとしている実践として、また、SNS 世代と称される学生自身も非常に参加しやすい実践として、この事例を位置付けることができるように思いました。



Teams のチャットのイメージ